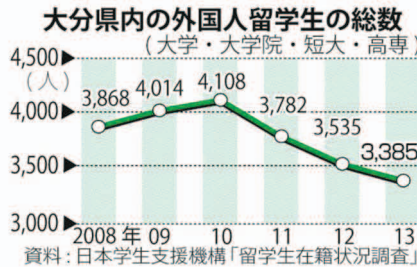


|   |   |    |
|---|---|----|
| 年 | 組 | 名前 |
|---|---|----|

## 中韓との関係悪化など背景

# 外国人留学生 3年連続減少

県がまとめた県内の外国人留学生の在籍状況によると、2013年5月1日現在の総数は3385人で、前年比4・2%減（150人減）となった。10年（4108人）をピークに3年連続の減少。日中・日韓関係の悪化などを背景に、県内留学生の大半を占める中国、韓国の出身者が大きく減る一方、経済発展が著しいベトナム、タイなど東南アジアの増加が目立った。



インドネシア 186人(28人増)と軒並み増えた。留学生の受け入れをめぐっては、東日本大震災などを背景に国内総数も減少しているほか、優秀な人材確保を目指す国内外の大学間で「獲得競争」も激化している。このため県は留学生獲得に向けた独自の取り組みとして、日本学生支援機構が海外で開く留学生フェアに担当者を派遣。県の奨学金制度や生活支援、県民の理解といった「暮らしやすさ」を現地でアピールする。

県国際政策課は「国際交流の充実、地場企業の海外展開を目指す上で、外国人留学生は貴重な存在であり、帰国後も大分と母国をつなぐ懸け橋となる。県内

(2014年4月25日朝刊5面)

人口10万人当たりの留学生数は285・7人で、京都府、東京都などを抑え、前年に続いて全国トップを維持した。総数では全国9位だった。日本学生支援機構の調査を基に、大学(短大・大学院を含む)と高専を対象に集計した。

出身国別に見ると、中国 1346人で最も多い。これに対し、東南アジアの大学と連携し、自治体と諸国連合(ASEAN)加盟国(ASEAN)に加しても留学生の受け入れに力を入れた」としている。韓国も746人で、同年前年(前年比41人増)▽251人(193人(20人増)▽

## 東南アジアからは増

大分県がまとめた県内の外国人留学生の在籍状況によると、2013年5月1日現在の総数は3385人で、前年比4・2%減(150人減)となりました。

①減った出身国と増えた出身国はどこと理由は何でしょう。

.....

.....

.....

.....

②人口10万人当たりの留学生数で大分県は、全国都道府県で何位でしょう。

.....

.....

.....

.....

③留学生に大分県の良いところをアピールしよう。

.....

.....

.....

.....